

日 時：2020 年 10 月 24 日(土) 8:30-11:30

会 場：グランドプリンスホテル京都 1F ロイヤルルーム(第 15 会場)

テーマ：「診療ガイドラインの作成から構造を学ぶ：がん診療の質向上を目指して、評価委員会からのメッセージ」  
日本癌治療学会がん診療ガイドライン評価委員会では、様々ながん診療ガイドラインの評価を長年にわたり行ってきた。評価結果には、作成者側にとって受け入れが困難で、改善が容易ではない事項も含まれている。本シンポジウムは、我々評価者側が感じている種々の問題点等をお伝えすることで、更なるがん診療ガイドラインの質向上に役立つことを期待し、企画したものである。

プログラム：

司 会

河野 浩二 福島県立医科大学消化管外科学講座，日本癌治療学会がん診療ガイドライン統括・連絡委員長  
松井 邦彦 熊本大学病院救急・総合診療部／日本癌治療学会がん診療ガイドライン評価委員会委員長

1. 開会にあたって

河野 浩二 福島県立医科大学消化管外科学講座／日本癌治療学会がん診療ガイドライン統括・連絡委員長

2. 評価委員会についての紹介

松井 邦彦 熊本大学病院救急・総合診療部／日本癌治療学会がん診療ガイドライン評価委員会委員長

3. 診療ガイドラインの作成と評価：Minds よりのメッセージ

中山 健夫 京都大学医学研究科社会健康医学系専攻健康管理学講座健康情報学

4. 作成者側からの意見

滝口 裕一 千葉大学医学部附属病院腫瘍内科

5. AGREE II による評価の概略

秋元 哲夫 国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター粒子線医学開発分野

6. 診療ガイドラインの対象、および作成メンバーの構成

佐藤 温 弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座

7. 診療ガイドラインの作成における資金性の独立と COI の意味

岡本 好司 北九州市立八幡病院 消化器・肝臓病センター外科

8. エビデンス総体の意味から推奨の作成へ

高橋 理 聖路加国際大学公衆衛生大学院，聖路加国際病院一般内科

9. PICO 形式で CQ を作る必要性、意義

柴田 浩行 秋田大学臨床腫瘍学講座

10. がん診療ガイドラインと費用対効果

下妻 晃二郎 立命館大学生命科学部生命医科学科

11. 診療ガイドラインによる効果、影響の可能性、期待

真弓 俊彦 産業医科大学救急医学講座

12. QI(Quality Indicator)と診療ガイドライン

東 尚弘 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター

13. 閉会に当たって

松井 邦彦 熊本大学病院救急・総合診療部／日本癌治療学会がん診療ガイドライン評価委員会委員長